

平成23年度耕作放棄地解消事例調査票

NO.

協議会名	出雲市耕作放棄地対策協議会
平成22年度実施地区名	高松地区
地区の農地面積	304ha
うち耕作放棄地	10a
ほ場数	1
実証ほ対象面積	10a
地目	水田 <input type="checkbox"/> 畑 <input checked="" type="checkbox"/> 樹園地
色分け	緑 <input type="checkbox"/> 黄色 <input checked="" type="checkbox"/>
荒廃の程度・必要な作業	<input checked="" type="checkbox"/> 雑草繁茂 <input type="checkbox"/> 樹木侵入 <input type="checkbox"/> 人力作業 <input type="checkbox"/> 農業機械 <input checked="" type="checkbox"/> 重機 その他 ()
荒廃の理由	高齢化 <input checked="" type="checkbox"/> 労働力不足 <input type="checkbox"/> 後継者不在 <input type="checkbox"/> 鳥獣害 その他 ()
取組主体	布野 宏定
実施期間	再生作業：平成22年1月下旬～平成22年3月末
実施事業費	全事業費 (1,546,250) 交付金 (798,125) 県費 (374,062) 市町村費 (374,063) その他 ()
作業内容	<input checked="" type="checkbox"/> 刈払 <input checked="" type="checkbox"/> 整地 <input checked="" type="checkbox"/> 土壌改良 <input checked="" type="checkbox"/> 定植 <input type="checkbox"/> 用排水整備 <input type="checkbox"/> 客土 <input type="checkbox"/> その他 ()
導入作物	ほうれん草、白ネギ
出荷先	おろし市場
取組のきっかけ	耕作放棄地の情報知った、農業委員が取組主体となり解消に努めた。 土地所有者も、以前は葡萄をハウス栽培していたが、老衰から管理が困難になり、3～4年放置されていた。
調整経緯	土地を売りに出していたが、買い手が見つからず取組主体が借りた。担い手も、取組主体の方が地元農家に直接交渉した。
現在の状況	白ネギを収穫済み。
今後の計画	3月、4月から無花果を栽培計画中。
その他	(現地写真)



